

#11 神奈川県史 通史編2 近世1

作者：神奈川県民部県史編集室（かながわけんけんみんぶ  
けんしへんしゅうしつ）

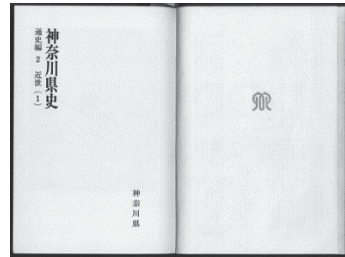
刊行：昭和56年（1981）



解題

■ 内容

通史編の近世は2巻からなる。1巻目にあたる本書は、徳川家康が関東に入府した天正18年（1590）から、享保改革の直前である正徳5年（1715）まで、120余年間の神奈川県域の諸相を叙述している。徳川幕府のもとに確立



[K21/16-3/2] [213.7/10-3/2]

する幕藩体制、体制を反映した各地の展開、村落の構造や家の問題などを示し、寺社参詣や庶民の信仰との係わり合いを明らかにしたものである。

6章立ての構成になっており、大山寺や大山詣りに関する項があるのは「第六章 寺社と庶民の信仰」である。その「第三節 諸郡の寺社」と「第四節 寺社参詣と庶民信仰」では、近世大山の成立と繁栄について、大山寺縁起の紹介に始まり、寺領の概観や『開導記』にみる大山御師の活動を、歴史を追って述べている。また当時の参詣の様子や大山の全景を描いた絵図を掲載している。

大山寺は幕府に存在感を示した寺社の1つである。寺社統制が厳しかった江戸時代、寺院法度の約4分の1が関東へあてたものを占めており、政権における関東の重要性が窺える。法令により多くの僧は山上から下ろされ権利を失ったが、その後御師として大山信仰を庶民に広めた。御師の活動に影響を受けた大山参詣の高まりは、同時に大山道の村々にも賑わいを

## 第2章 歴史

与えることとなる。

当館以外に国立国会図書館、東京都立中央図書館、横浜市中央図書館をはじめとして都道府県立公共図書館等で所蔵が確認できる。

### ■ 作者

県政百年記念事業として、また県における初の本格的な県史編集事業として、神奈川県が編纂した。県による県史編集事業は、大正2年(1913)発行の『神奈川縣誌』、昭和3年(1928)発行の『吾等の神奈川県』、昭和30年(1955)発行の『開国から百年』があったが、県の正史には及ばなかった。その状況下、神奈川県図書館協議会により県史の必要性を説く意見書が提出され、採択されたことを発端に、昭和41年(1966)に準備室が発足、昭和42年に県史編集室に改組した。

本書の刊行にあたっては、竹内理三総括監修者のもと、監修・編集・執筆は児玉幸多主任執筆委員、編集・執筆は青木美智男、川名登、神崎彰利、木村礎各執筆委員のほか、村上直、山本光正も執筆を担当した。

各者の発刊当時の立場は次の通り。竹内理三(元東京大学教授)、児玉幸多(学習院大学名誉教授)、青木美智男(日本福祉大学助教授)、川名登(千葉経済短期大学教授)、神崎彰利(明治大学講師)、木村礎(明治大学教授)、村上直(法政大学教授)、山本光正(千葉県職員)。

### 参考文献

『神奈川県史 資料編 8 近世 5 下』神奈川県県民部県史編集室 1979 [K21/16/8-2]

『新編相模国風土記稿 上・下』(復刻版) 間宮士信ほか編 千秋社 1983 [K291/857/1-1, 1-2, 2-1, 2-2]

『神奈川県史研究 別冊』神奈川県史編集委員会編 神奈川県県民部県史編集室 1984 [K21/18]

『伊勢原市史 別編 社寺』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1999 [K21.64/7/3-2]